

# 第一次大極殿院大極門（南門）

大極門は、周囲を築地回廊で囲んだ南北約317.7m、東西約176.6mの第一次大極殿院の南側に位置する正門です。儀式の際には、天皇が御することもありました。

発掘調査・研究の結果、礎石建ちで入母屋造の二重門として復原しました。間口22.1m、奥行8.8m、高さ約20mと、朱雀門よりやや小さい建造物ですが、すべての垂木の先端に木口金具が施されています。木口金具は重要な建造物だけに施される装飾で、朱雀門よりも多くの部材に金具を備え、第一次大極殿に準じる格をもっています。

また、礎石の柱座や鵲尾の蓮華文なども第一次大極殿に準じた格の高い造りで復原されています。

この門が当時なんと呼ばれていたか。その門号（門の名称）に関する記事は文献資料にはみえません。そこで、日本や中国の宮殿等の事例研究から「大極門」と命名し、扁額に揮毫しました。

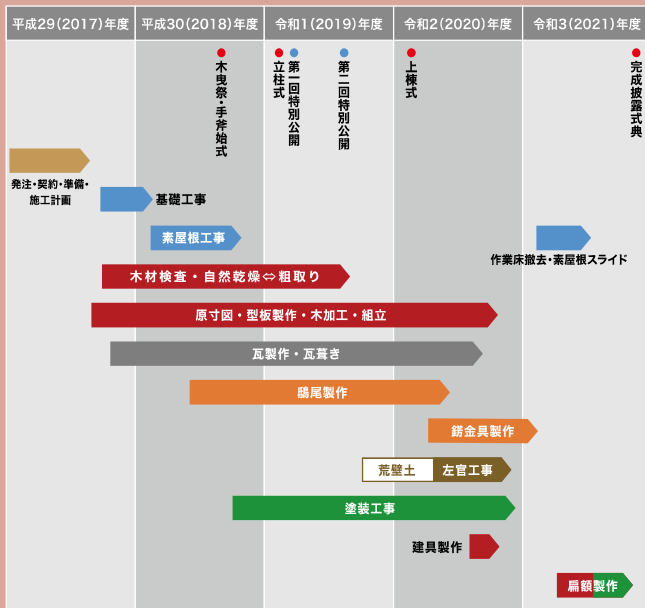
## ■建物概要

工期：平成29年(2017)11月  
～令和4年(2022)3月  
構造：木造 五間三戸二重門  
建築面積：449.81㎡  
延べ面積：195.68㎡  
最高の高さ：地盤面より鵲尾頂部まで約20m  
軒の高さ：基壇面より約14m

## ■主な仕上げ

基壇外装：流紋岩質溶結凝灰岩(黄竜山石)  
礎石：自然石花崗岩  
木部塗装：丹土・胡粉・緑青塗  
壁：漆喰塗仕上げ  
屋根：本瓦葺  
鋳金具：青銅製

## ■復原整備工事の工程



## 利用案内

【開館時間】 9:00～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】 2月・4月・7月・11月の第2月曜日(祝日の場合は翌日)  
年末年始(12月29日～1月1日)

【入館料】 無料

館内での飲食、および喫煙、携帯電話による通話をご遠慮ください。

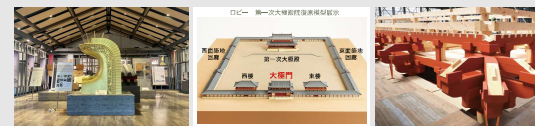
## アクセス



- 大和西大寺駅南口から 徒歩15分
- 「ぐるっとバス」大宮通りルート(平日30分間隔・土日祝15分間隔)  
・近鉄奈良駅前バス8番のりばより「朱雀門ひろば前」下車 北に徒歩12分  
・近鉄大和西大寺駅南口駅前広場バスのりばより「朱雀門ひろば」下車 北に徒歩10分
- JR奈良駅西口からバス13番のりばより学園前行きにて「朱雀門ひろば前」下車北に徒歩12分

## 復原事業情報館

大極門を含む第一次大極殿院復原整備事業の様々な情報をご覧ください。大極門から徒歩2分。



【開館時間】 9:00～17:00(入館は16:30まで)  
【休館日】 2月・4月・7月・11月の第2月曜日(祝日の場合は翌日)  
年末年始(12月29日～1月1日)  
【入館料】 無料

## お問い合わせ

### 平城宮跡管理センター

住所：〒630-8012 奈良県奈良市二条大路南三丁目5番1号  
URL：<https://www.heijo-park.jp>  
TEL：0742-36-8780



第一次大極殿院復原事業に関するお問い合わせ  
国営飛鳥歴史公園事務所平城分室  
TEL：0742-36-4327

2023年2月発行

# 第一次大極殿院大極門(南門)



# 大極門の復原研究

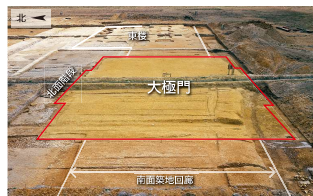
## □発掘調査

発掘調査は、奈良文化財研究所が昭和48年(1973)、平成17年(2005)、平成29年(2017年)に行いました。

柱の位置は確認できませんでしたが、建物下の基壇(基礎)の地盤改良と、基壇の側面を覆う石材(基壇外装)や階段の痕跡、屋根から落ちる雨水を受ける溝(雨落溝)を検出しました。これらの手がかりから、基壇と階段の大きさが判明しました。



発掘調査

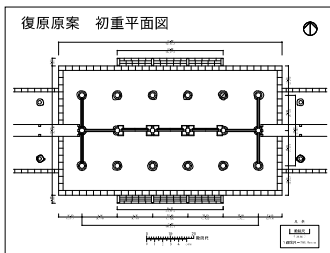


ほぼ基壇全体を発見した昭和48年の発掘調査

## □柱の位置の復原

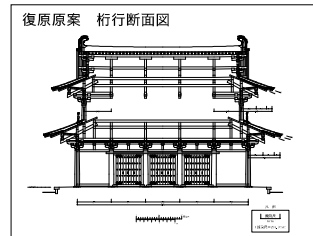
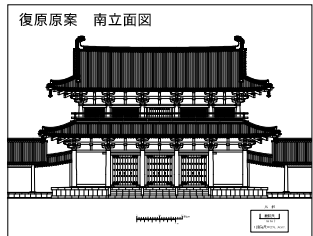
発掘調査で得られた手がかりは、基壇と階段の大きさ、および雨落溝でした。大極門の基壇は、間口に対して奥行の割合が比較的大きいのが特徴です。

これらの情報をもとに、文献資料や絵画資料、発掘類例、現存する古建築の分析等を加え、屋根の形や深さ(軒の出)、柱上の組物などの建造物の上部構造を一体的に検証し、柱の位置を復原しました。



## □門のかたち

文献資料等から、興福寺南大門は奈良時代前半から屋根が上下二層にかかる「二重門」だった可能性が高く、また古代の二重門はすべて桁行5間以上であったことが判明しています。さらに絵画資料では、二重門のほとんどが入母屋造に描かれています。その他の事例研究の結果、時代性、規模、伽藍上の位置などを鑑みて、大極門は二重門・入母屋造で復原されました。



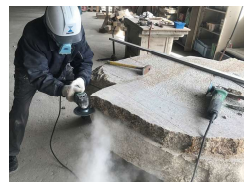
## 伝統技能継承 木の工匠

木材の選定から原寸図・型板作成、手斧や槍鉋等による加工、仕上げ、組立て、伝統建築技法で造営されました。



## 伝統技能継承 石の工匠

柱礎石は滋賀県で産出した花崗岩、基壇外装は兵庫県宝殿産の凝灰岩である「黄竜山石」を使用。切出し、加工、設置まで慎重に行われました。



## 伝統技能継承 塗の工匠

建物の塗装には、赤茶色の丹土、緑色の緑青、白色の胡粉等の顔料を用い、顔料と膠を現場で調合する伝統的な塗装技法が使われています。



## 伝統技能継承 壁の工匠

左官は、壁や床を土や漆喰などを、鏝等の道具を使って塗上げる工匠です。下塗りから最後の漆喰塗りまで6工程の手間がかけられました。

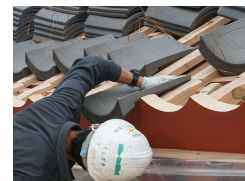


大極門復原は、古代建築の伝統技能を継承する様々な分野の多数の工匠の技・経験・知識によって支えられています。

## 【伝統技能継承】

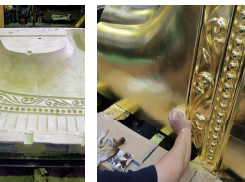
## 伝統技能継承 瓦の工匠

瓦は、古代の瓦造りの技術を復原した上で、現代的な瓦造りの方法で1枚ずつ製作。伝統的で格式の高い「本瓦葺」で葺かれました。



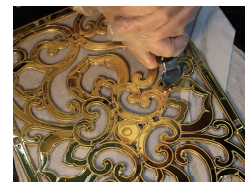
## 伝統技能継承 鵺尾の工匠

粘土型、石膏型、FRP原型、4つの部分に分けた鑄型(砂型)の段階を経て、青銅の鑄込を行いました。表面に金箔を使った漆箔を施しています。



## 伝統技能継承 鏝の工匠

木口金具は青銅製。一部に用いた仕上げのアマルガム鍍金(金を溶かした水銀を塗った後、水銀を飛ばす)は奈良の大仏と同じ技法です。



## 伝統技能継承 扁額(へんがく)の工匠

槍鉋で製作。文字は文字周囲を薬研彫りとし、彩色も伝統的な天然顔料を用いた塗装です。周囲の額縁の形状は、基本的には大極殿と同じです。

